終助詞「や」についての覚書

中　﨑　　崇

0．はじめに

本稿は、以下に示す終助詞「や」について、その意味・機能を記述するための前段階として、その使用状況の記述を行うことを目的としている。

（1）知花：[高校の先輩と二人きりになった時のことを思い出して]（心内発話）その前の沈黙が重くて重くて…何も喋れなかったもん。…何でなのかなあ。あのあとはフツーに話せたのに…判んない**や**。

犬上すくね『ういういdays』7巻　竹書房

（2）麦　：[恋人と２人で温泉にとまることになった夜、トランプをしている]（心内発話）ゆう…ホント普段と変わんない**や**…オレなんかずっとドキドキしてんのに…

小林俊彦『ぱすてる』19巻　講談社

文末に位置する「や」は、「終助詞」といった品詞を導入したのは山田（1908）においては「間投助詞」とされており、「こは全く語調を整ふる爲のものにして別に深き意義を有するにあらず（p.688）」と述べ、(3)〜(6)のような例をあげている。[1]間投助詞とされている理由として、並列助詞とされるものや俳句などで主題を表すものなどが含まれており、その出現位置が文末に限られないためであると考えられる。

また口語を扱った山田（1922）では、終止用法以外の用例として呼びかけの意味を表す(7)があげられている。

（3）さらしなや姥捨山

（4）いなや思はじ思ふかひなし。

（5）古池や蛙とぶこむ水の音。

（6）みな人は蝶や花やといそぐ日も。

（7）坊や、おとうさまがおかへりだよ

本稿では、呼びかけのような間投用法は扱わず、文末に現れる終止用法のみを扱う。その際、間投用法と終止用法のそれぞれの形式について、同形異態であるのか基本的意味を共有する同形であるのかといった問題についても同様に議論しない。それぞれの用法を区別し、終止用法のみを扱うことにする。

1．先行研究

現代語の終止用法の「や」について、年代順に先行研究を概観する。

山田（1922）は「や」について「『よ』と意義が似て居て稍輕いものである（p.203）」と述べ、終助詞「よ」との意味の共通性を指摘し、さらに「指示する意を以て用言の命令形及び禁制の語につき、又複語尾『ない』『う』『よう』の終止形について終止し、又呼掛の意をあらわして體言につき、又事物を枚擧する爲にそれらの中間に投入せられる（p.203）」と述べている。用例を、①命令形に後接するもの、②否定命令形（禁制の語）に後接するもの、③複語尾「ない」「う」「よう」の終止形に後接するもの、④体言に後接し呼びかけの意味を表すもの、⑤並列（事物の枚挙）をあわらすものの５つに分け、以下のような例を示している。

（8）早くこいや。　①

（9）そんな事はするなや。　②

（10）僕は知らないや。　③

（11）テニスをしようや。　③

（12）松子や、お使に行つて來ておくれ。　④

（13）今は菜種や櫻の花盛です。　⑤

国立国語研究所（1951）では、「や」を接続助詞、並立助詞、終助詞、

間投助詞の４つの品詞に分類し記述している。接続助詞については「ある動作・作用が行われると同時に、他の動作が行われる場合、前件と後件を結びつける（p.222)」、並立助詞については「事物を並列・列挙する（p.222)」と述べ以下のような例をあげている。

接続助詞

(14) つづく二壘のロディジアニも、オドール監督の左腕が大きくまわっているのを見るや、すばらしいスピードで三壘をこえて本壘へとびこみました。

並立助詞

(15) 盆地や山の斜面が太陽の直射によって温まり

間投助詞については、①呼びかけ、②副詞について、意味を強める、の２つの用法を上げている。

間投助詞

(16)「そら、うさちゃんや、朝ごはんあげよ。」①

(17) 一森は、またもや身体に窮する思ひで、扉口に釘附けになった ②

終助詞については、①勧誘･命令、②詠嘆、の２つの用法をあげている。

終 助 詞

(18)「帰ろうや」 ①

(19)「よっちゃん、遊ぼうや」 ①

(20)「お前の親爺自慢なんて、間接的にお前の自惚れじゃないか、よせやい」①

(21)「まあいいや、しっかりやろう」 ②

(22)「知らない人と会ふの面倒くさいや」 ②

(23)「わけないや」 ②

(24)「それならおもしろいや」 ②

②の詠嘆の用法については「相手へとも自分自身ともつかぬ方向に、いはば、そっぽを向いて、または、軽く言い放す気持ち（p.224)」と述べ

ている。

古典語と現代語の「や」を扱ったものとして宇野（1969）がある。宇野（1969）は、古典語の「や」の主な意味として（25）のような「語調・句調を整えるためのもので、特別に意味をもたないもの（中略）、ふつうには詠嘆とか、感動とかを表す（p.690）」、（26）のような「呼びかけの意を表す（p.690）」、（27）のような「物事を並べ立てたり、一つをあげて他を暗示する意を表す（p.690）」の３つをあげている。その他、俳句の切れ字になる「や」は主題を示すことが多い、「こらえてや」など活用語に続く「て」「で」につく「や」は希望・願望の意味を表すと指摘している。

（25）いかにせむとぞおもほゆるや（枕草子、第七段）

（26）いなやおもはじ（古今集、巻十九）

（27）扉やなにやと拍子にして（枕草子、第五段）

現代語の「や」については「古典語の係助詞『や』と同系統のもので、名詞または副詞に接続する（p.691）」と述べ、（28）のような「話しことばに多く用いられる「呼びかけを表す」ものと（29）のような書きことばに多く用いられる「意味を強める」ものとに分けて記述している。

（28）花子や、早く来てごらん。

（29）いまや、まさに危急存亡のときである。

宇野（1969）では、現代語については間投助詞としての「や」しかあつかっておらず、終止用法は扱っていない。

終助詞としての「や」について単独で扱った論文は少なく、管見の限りでは命令文に後接する「や」を扱った中野（2010）のみである。中野は命令文における「よ」と「や」の異なりを中心に考察を行っている。

中野は、「や」が「来なさい」「いらっしゃい」といった尊敬の要素を含まない動詞の命令形に下接すること、「必ず」「絶対に」といった副詞と共起しにくいことを根拠として、「や」が下接した命令文が聞き手の意向を尊重しての強いない要求を表していると述べている。（これに対

して「よ」が下接した命令文が聞き手の意向に委ねることなく、話し手の意向に従わせようとする要求を表していると述べている）

3．使用状況

ここからいくつかの側面に従って「や」の使用状況について記述していく。

3．1．表現類型

現代標準語の終助詞「や」が出現する環境は、他の終助詞、特に「よ」などと比べて非常に限定される。先行研究での指摘のとおり、先にあげた（8）（9）（11）のような働きかけの表現形式の中で動詞の命令形（否定命令形も含む）[2]、シヨウ形（勧誘形）には後接可能である。述べ立ての表現形式の中では、形容詞述語文であれば後接可能である。

（30）オペレーターA「数はそろっています。あ、いや、情報より一隻多い<u>や</u>」『逆襲のシャア』

現代標準語の場合、形容動詞述語文、名詞述語文、動詞述語文については、述べ立ての表現形式では「や」の後接は容認されがたい。[3]

（31）？ああ、もうだめ<u>や</u>。

（32）？ああ、もう終わり<u>や</u>。

（33）？ああ、試験に落ちる<u>や</u>

しかし、形容詞語幹形の否定（ナイ）形をとった場合であれば、形容動詞述語文、名詞述語文、動詞述語文であっても、以下のように許容される。

（34）甘酒も好きじゃないなぁ。麦酒以外のアルコールも好きじゃない<u>や</u>。。

http://ameblo.jp/love-masked-rider/entry-11729729169.html

(35) 睡魔が襲って来ましたドクロ

やっぱり０時・１時が限界のようです(^^ゞ　明日じゃないや。

「今日は」　６時頃起きるんだろうな。。

http://ameblo.jp/kpymc982/entry-11729398902.html

(36) ロラン「…、ディアナ様が見えないや」

∀ガンダム第７話「貴婦人修行」

述べ立ての表現形式では、形容詞語幹形とだけ後接可能ということになる。

問いかけの文については「よ」は（37）（38）のように問いかけの文にも後接することができるが、「や」は、（37'）（38'）のように問いかけの文にも後接することはできない。

(37) 佐次：死ぬ前に小泉に物申す！！小泉にとってオレはそんなに恥ずかしい男なのかよ！（略）答えろよ、小泉！

小泉：恥ずかしい、でもいなくなっちゃ…ヤダっ。

『イケてる２人』

(38) カオル：どうやって知り合ったんだよ？

永井：自然にさ

シナリオ作家協会編『90年鑑代表シナリオ集』映人社

(37') ？小泉にとってオレはそんなに恥ずかしい男なのかや！

(38') ？カオル：どうやって知り合ったんだや？

３．２．位相差

先行研究においては、「や」の男性語、女性語といった位相差についてはあまり言及されていない。[4]しかし、働きかけの表現形式に付加する「や」については特別な状況でなければ男性にのみ用いられる。また男性であっても何らかの特徴、特定の人物像を持った話し手が多い。例えば（39）のような少年漫画の主人公、（40）（41）のような兵士などである。これらに共通する点としては、ぶっきらぼうであったり、粗暴といっ

た人物であったり、そのような人物像を想起させるために用いられているように思われる。[5]

(39) 凪木：ゴチャゴチャ言ってねーでかかってこいや。オラァッ!!

大暮維人『天上天下』10巻 集英社

(40) ブルーノ「軍曹、どうしたんです？引き下がるんですか？」

コレン「てめえら、俺だって地球の重力に勝てるほどタフじゃねえんだ、今の俺には地球がメリーゴーランドのように回って見えてんだよ」

ヤコップ「ブルーノ、ここは大将の体を大事にしましょうや」

∀ガンダム　第９話「コレン、ガンダムと叫ぶ」

(41) スレッガー「少尉、こんな所へどうしたんです？え？」

ミライ「よかった…」

スレッガー「少尉、やめましょうや、迂闊ですぜ」

機動戦士ガンダム　第36話「恐怖！機動ビグ・ザム」

このような人物像は、「や」を「少尉、やめましょうよ」のように「よ」に置き換えた場合想起できなくなる。

述べ立ての表現形式に後接する「や」については、（1）のように女性であっても、（2）のように男性であっても用いられる。この点は、働きかけの表現形式に付加される「や」とは異なる。

（1）知花：判んないや。

（2）麦　：ゆう…ホント普段と変わんないや…

漫画などの用例では、述べ立ての表現形式に後接する「や」を用いるのは、成人の話し手ではなく、未成年の話し手が多い。（1）と（2）の発話者はともに高校生であり、(42) のように幼児の場合もある。

(42) (自分たちを守ってくれたロボットを破壊されて)

クム「なんでなんで？」

チヨ「なにするのよ、ひどいわよ」

タチ「なにするんだ、ひどいやひどいや」

機動戦士ガンダム　第15話「ククルス・ドアンの島」

ただ、成人の話し手には用いられないわけではなく、(30) などは成人の話し手である。この場合、働きかけの表現形式に付加される「や」と異なり、その使用によりぶっきらぼう、粗暴といった人物が想起されることはない。

3．3．対話と独話（「や」の聞き手めあて性）

先行研究においては、「や」の用法における対話と独話の区別はなかった。これは「や」がその区別なく用いられるためであろうか。少なくとも、これまで用例としてあげてきた働きかけの表現形式に付加した「や」については、対話場面での発話である。ここから、働きかけの表現形式に付加される「や」は対話場面に用いられると言えよう。

述べ立ての表現形式に付加される「や」は、独話場面に用いられた用例を容易に見つけることができる。冒頭の（1）（2）についてはともに心内発話で「や」が用いられた例である。もちろん、聞き手が存在する場面において用いられた例も指摘することができる。

(43) ロラン「…、おいしいや、キエルお嬢さんのくださったベーコン」
ディアナ「ほんと、ミリシャの保存食はおいしいものですね」
ロラン「…ミリシャの、ですね。…」
∀ガンダム第13話「年上のひと」

(44) 子供達「わあーっ」
ハロ「チョウチョ、チョウチョ、チョウチョ、チョチョ、チョ、チョウチョ」
セイラ「綺麗なものね」
アムロ「すごいや」「いよいよ連邦軍のドック入りですね」
ブライト「嫌かね？」
アムロ「いえ」

機動戦士ガンダム第29話「ジャブローに散る！」

(45)（宿敵キングを倒したことによろこぶハル達）

エリー：ハル、頑張ったね。

ハル：あはは、いつものことだけど、もう動けねえ<u>や</u>。

全部の力使いきっちまった。ぎりぎりだあ。

エリー：ブルーもよく頑張った。良い子良い子したげる。

RAVE第36話「哀しき空の向こうに…」

この場合、眼前に聞き手は存在するが、聞き手に向けての発話（自分の感想を知らせる）とは解釈しづらい。実際に（43）を（43'）のように感想に関する問いかけの文に対する応答文とした場合、やや不自然な発話となる。このような問いかけの文に対する応答文の場合、（43"）のように「よ」を用いれば自然な発話となる。

(43')ディアナ「このベーコンのお味はどう」

？ロラン「おいしい<u>や</u>」

(43")ロラン「おいしい<u>よ</u>」

また、(43)(44)を丁寧体にした(46)(47)についても、聞き手が存在する場合であってもやや不自然な発話となる。[6]

(46)ディアナ「このベーコンのお味はどう」

？ロラン「おいしい<u>ですや</u>」

(47)エリー：ハル、頑張りましたね。

？ハル：あはは、いつものことですが、もう動け<u>ませんや</u>。

以上から「や」は、働きかけの表現形式に付加された場合、聞き手めあて性を有し、述べ立ての表現形式に付加された場合、聞き手めあて性を有さないと言える。

しかし、実際の用例としては、「や」が働きかけの表現形式に付加され、聞き手が目の前に存在しないような場面で使用された例も存在する。(この場合願望としか解釈できない)

(48)そろそろ。。。晴れろ<u>や</u>～～～～～～

http://ameblo.jp/godutch57/entry-10516283931.html

(49) 日曜晴れろ～晴れろ<u>や</u>～ハレルヤ～

月曜から念じてます。

http://blog.crooz.jp/anchan68/ShowArticle?no=93

また、述べ立ての表現形式に付加される「や」には「やい」といった「い」が後接する場合があり、会話ではないが聞き手の問いかけ（相手の書き込み）に対する応答として「やい」が用いられることがある。（この場合の「い」を品詞論上どのように位置づけるかは、今回は問題としない[7]）

(50) 233：名無し名人：2010/08/30（月）23:59:55 ID:brREVU4u

<u>悔しいだろ、先崎？</u>分かるよ。

思うように行かないこと、たくさんあるよな！

<u>立会人</u>できて、目の前でタイトル戦があったとしても

指せない！

我慢しなきゃいけないときだってあるんだよ！

人生、思うように行かないことばかりだ！

でもそこで頑張れば絶対必ずチャンスが来る！

頑張れよ！

234：名無し名人：2010/08/31（火）00:44:55 ID:u8s15Tmq

くやしくなんかない<u>やい</u>

http://toki.2ch.net/test/read.cgi/bgame/1279333605/150

(50) の例から考えると「やい」といった連接の場合には、聞き手めあて性を有すると言えるかもしれない。ただ「やい」といった連接の場合、常に対話場面に用いられるわけではなく、

(51) 満月の日だった。満月の日は犯罪が多いというが、その日は陽気も良く、平和な一日だった。したがって仕事も無く、横島忠夫は帰途についた。なんか気持ちいいので月光浴しながら遠回りなんかしたりして・・・・途中やたらアベックを見かける。

すでに数十組とすれ違った。この先に公園があるのでそこでいちゃつくのだろう。

「ちくしょう〜〜くやしくなんかないや〜〜い」

内心は悔しかったが、、、まぁとにかくやたら盛りまくっている季節だった。犬まで交尾しているのが多い。1人歩いているのが馬鹿馬鹿しくなった横島は急いでアパートに帰る。だが何故か部屋に明かりがついている。

http://green.ribbon.to/~koneta/denpa/gs1/1127464978_5642.html

(51) のように聞き手が存在しない場面での用例をみつけることは可能である。この「やい」の扱いを含め、「や」の聞き手めあて性については慎重な議論が必要と考えられる。

3.4. 認識のモダリティ形式との後接

「や」は、「よ」とは異なり認識のモダリティを表す形式とは後接しづらいといった特徴がある。具体的には、命題が表す内容を想像・思考や推論の中で捉えたことを示す推量の「だろう」、徴候性判断を示す「ようだ」「そうだ」とは後接しない。

(52) ？たぶん明日は晴れるだろうや。

(53) ？どうやら明日は晴れるようや・そうや。

しかし、徴候性判断を示す形式でも「らしい」については後接可能である。[8]

(54) ジント：(心内発話) ぼくには苦手な人間がたくさんいるのにぼくを苦手とする人間はこの銀河にはいないらしいや　とほほ

森岡浩之『星界の紋章』メディアワークス

蓋然性判断を示す「かもしれない」「にちがいない」については用例はみつけることはできない。ただ、どちらも形容詞語幹形であるので「や」が後接する可能性があり、(55) (56) は (52) (53) ほど容認性が低いとは感じられない。

(55) ひょっとしたら明日は晴れるかもしれないや。

(56) きっと明日は晴れるにちがいないや。

認識のモダリティを表す形式との共起関係については、形態論的な理由により共起しないのか、「や」が有する意味・機能との関係で共起できないのか慎重に判断する必要がある。

4. まとめ

これまで、いくつかの点から「や」の使用状況についてみてきた。その特徴として、出現する環境が非常に限定されるということがあげられる。表現類型の点では、働きかけと述べたてに限定されるが、その中でも出現環境が限定される。働きかけでは、命令形（否定命令形も含む）、シヨウ形（勧誘形）に限定され、丁寧形（テクダサル形）や主語尊敬動詞ナサルの命令形については後接不可能である。また述べ立てについては、形容詞語幹形に接続が限定され、「です」といった丁寧体、「ます」といった丁寧動詞による述べ立ての文には後接不可能である。

認識のモダリティとの共起という点では、徴候性判断を示す形式には後接するが、その中でも「らしい」に限られる。

上記のような「や」が有する出現環境の制限については、形態論的な理由によるものなのか、意味的な理由によるものなのか慎重に検討していく必要がある問題である。

もう一つの特徴は、働きかけの表現形式に付加する「や」と述べ立ての表現形式に付加する「や」で異なりがみられることである。位相の点においては、働きかけ、述べ立て、どちらも「や」を使用する話し手の位相に制限が見られた。働きかけの表現形式に付加する「や」については男性にのみ用いられ、述べ立ての表現形式に付加する「や」については、使用に男女の区別はないが、若年層の使用が多いといった特徴がみられた。しかし、前者には特定の人物像と結びつけるような使用がみられたが、後者には特にそのような使用は感じられないといった違いが存

在する。

聞き手めあて性の点においても、働きかけの表現形式に付加された「や」と述べ立ての表現形式に付加された「や」で異なりがある。基本的には、前者が聞き手めあて性を有し、後者は聞き手めあて性を有さないといった異なりである。(ただし、どちらも聞き手めあて性を有さない場合、有す場合の例が存在する)

上記のような２つの表現形式に後接する「や」の異なりは、それぞれの形式に後接する「や」の意味・機能の異なりが招来しているのかを詳しく検討する必要がある。

今後、本稿で検討した「や」の使用状況を参考にして、その意味・機能について考察を行っていきたい。

５．参考文献

宇野義方（1969)「や－終助詞〈古典語・現代語〉」, 松村明編『古典語現代語助詞助動詞詳説』学燈社

金水　敏（2000)「役割語探求の提案」,佐藤喜代治（編）『国語論究第８集　国語史の新視点』, pp.311-351, 明治書院

国立国語研究所（1951)『現代語の助詞・助動詞－用法と実例－』秀英出版

此島正年（1966)『国語助詞の研究 助詞史素描』おうふう

城田　俊（1998)『日本語形態論』ひつじ書房

中野伸彦（2010)「現代語における「命令文+終助詞『や』」」『研究論叢. 人文科学・社会科学』59(1), pp.61-66,山口大学教育学部

橋本進吉（1969)『助詞・助動詞の研究』岩波書店

山田孝雄（1908)『日本文法論』宝文館.

山田孝雄（1922)『日本口語法講義』宝文館

---

[1] 橋本（1969）では、ものの列挙に用いられる「や」を現代標準語の間

投助詞とし、感動を表すもので、きれる文節にのみ用いられる「や」を終助詞としてわけている。

[2] 依頼表現（テクレル形の命令形）にも後接可能であると思われる。（手伝ってくれや）　丁寧形（テクダサル形）や主語尊敬動詞ナサルの命令形については後接不可能である。（？手伝ってくださいや・？手伝いなさいや）　シヨウ形については、丁寧形（シマショウ形）は後接可能である。（行きましょうや）

[3] もちろん現代標準語以外であれば容認可能である。ただ現代標準語以外でも、「？ああ、もうだめだや」のように判定詞「だ」と共起することは難しいと思われる。この点については、判定詞「だ」と共起可能な「よ」と異なる。

[4] 此島（1966）は「や」の位相差について言及している。具体的には「位相的には若い男のやや投げやりの感じを伴うようになっている（p.427）」と述べている。

[5] こういった点を考えると、「や」が、金水（2000）が提唱する「役割語」に近い存在となっていることを示しているのかもしれない。

[6] （46）（47）が不自然となるのは、「や」が述べ立ての表現形式では形容詞語幹形とだけ後接可能であるといった特徴に起因するのかもしれない。形容詞述語文であっても、否定文であっても、丁寧体の場合は「です」が後接したり、丁寧動詞「ます」が後接したりするため、形容詞語幹形とはならず、そのことが「や」の後接を阻んでいる可能性がある。

[7] 山田（1922）では「そうしてくれい」のような「い」を終助詞としている。しかし「それを早くもってこい」のような動詞の活用語尾と考えられるものも含まれている。国立国語研究所（1951）でも終助詞とされ①質問・反問、②けいべつ、さげすみ、投げやりの気持をこめた反ばく、③語気を強める。念を押す気持ち、の３つの用法をあげている。

[8] 同じ徴候性判断を表す「ようだ」「そうだ」が「や」と後接しない理由として、「や」が判定詞「だ」と形態論的に共起しないことも考えら

れる。仮に「だ」が脱落し「ようや」「そうや」となっても現代標準語としては容認されない。